キリン
ビール

酒類メーカーとしての責任をスロードリンクで適正飲酒

▲適正飲酒へ「スロードリンク」を提唱する

キリングループでは、社会と共に持続的に存続・発展していくために「CSV 経営」を掲げる。

CSV とは Creating Shared Value の略で、社会との共有価値の創造を意味する。2011 年にハーバード大のマイケル・E・ポーター教授らが提唱した概念で、社会的ニーズや社会問題の解決に取組むことで社会的価値と経済的価値の創出を実現し、次なる成長の推進力にしていくものだ。

このための重要テーマを「持続的成長のための経営諸課題」に整理。また、長期経営計画を実現するための指針として CSV パーパスを策定。「酒類メーカーとしての責任」としてアルコール関連問題に取り組み、その上で「健康」「地域社会・コミュニティ」「環境」の 3 つの社会課題の解決に事業を通じて取り組む。

前提となる「酒類メーカーとしての責任」では、キリンビールらが適正飲酒啓発と次世代への酒文化継承に向けて、不適切な飲酒の根絶に向けたプログラムを実施。適正飲酒やマナーの啓発を実行すると共にノンアルコール・低アルコール商品の開発に取り組み、消費者の選択の幅を広げていく。

取り組みの一環として国内で販売する主な酒類商品に含まれる純アルコール量（g）を 2021 年 5 月から、商品を紹介する Web サイトの、栄養成分一覧に表示をしている。

業界団体とも連携して啓発活動なども行う。ビール酒造組合では、未成年者の飲酒防止や女性にとっての適正な飲酒のあり方など正しい知識の普及に努めている。また、世界的な課題としてのアルコール関連問題に対応する必要があることから、キリンホールディングスは世界の主要酒類メーカーが参画する国際 NPO「IARD」に加盟し、適正飲酒の推進と有害飲酒の低減をグローバルレベルで実現するための業界コミットメントを、グループの主要地域で 13 年から進めている。

これらの中でも、特に関心が高まっている適正飲酒について、「スロードリンク」を提唱している。これは、お酒の時間をゆっくりと楽しむことを主軸とするもので、語り合いながら料理も一緒に堪能しつつ、程よい飲酒量をスローで楽しむ提案だ。Web サイト上で、これからの時代の飲み方として紹介している。

また、アルコール影響を気にせず楽しめるノンアルコール商品にも注力している。2009 年に世界初のアルコール分 0.00％の「キリン　フリー」を投入。それまで年間約 250 万箱程度だった市場で約 400 万箱を販売。アルコール 0.00％の市場を創出したといい、高速道路 SA でのプロモーションや警察との連携による飲酒運転根絶イベントなどを通じて、社会課題の解決に貢献することができたとする。

直近では、お腹まわりの脂肪を減らすという機能性表示食品「カラダ FREE」など、ビールテイストやチューハイで複数のノンアル商品を展開している。